

中等部 Junior High School

そばにいてくださる神様

西野 優花 中等部3年

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じるものが一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)

この聖句はクリスマスのためのものだと思っていました。けれど中等部3年間で失敗した時や、自分自身が嫌いになる時でも、どんな自分でも神様は受け入れてくださっていると感じられる聖句になりました。フットプリントの詩のように、神様が私といつも一緒にいて励まし続けてくださる経験をしたからです。「優花は神様の宝物」と教えてくれた闘病中だった祖母。コロナ禍で会えず、病院ではテレビ電話もできません。私が今までで一番お祈りした時期でした。

今、祖母は天国にいて、お祈りが全て私の望み通りにはなりませんでしたが、毎日の礼拝で聞くメッセージや賛美歌に共感することもあり、悲しく心細い時にも神様を身近に感じ、自分でも不思議ですが、受け入れることができました。これからも、神様に導かれて祈りつつ歩んでいきたいと思えます。

いつまでも、愛とともに

岩佐 大助 中等部教諭

聖書のコリント信徒への手紙 13章4節に、「愛は忍耐強い」とあります。

73期の皆さんにとって、中等部生活のうち1年生学年末からの約2年間は、忍耐が必要な期間だったと思います。コロナ感染症のために数々の学校行事が中止・縮小され、日常生活でも休み時間やクラブ活動に至るまで、多くのことが制限されてしまいました。しかしそんな中でも73期生は卑屈になることなく、この状況下でできることを考え、それにとりも前向きに取り組んでくれました。そんな姿を目にする度に、



私は「なんて素敵な生徒たちなのだろう」と思ってきました。

まだ完全に鎮まることのないコロナの不安の中、3年間でたくましく成長した73期生は、それぞれの新しい環境に飛び立ちます。そんな73期生を、皆さんの「愛」を感じながら共に過ごした我々中等部の教員は、いつまでも応援しています。

これからも「愛」が溢れる素敵な皆さんであることを願いつつ、心から、ご卒業おめでとうございます。